

施策マネジメントシート

作成日 平成 28 年 8 月 30 日

施策	04 人々の交流を盛んにするしくみづくり		
施策 主管課	経営企画課	氏名 小宮山和人	施策 関係課 農林振興課、観光商工課、生涯学習課、御坂・一宮・八代・境川・春日居、芦川支所地域住民課

1. 現状把握 Plan→Do

(1) 施策の目的と指標

① 対象 (誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等 ◇ 市民 ◇ 友好都市住民 ◇ 首都圏住民	③ 対象指標名称 (対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない (単位) a 笛吹市の人口(年度当初)<見込み値は一定数値> 人 b 友好都市の人口(国外を除く)<見込み値は一定数値> 人 c 首都圏の住民基本台帳人口(年度当初)<見込み値は前年増減率> 人
② 意図 (対象をどういう状態に変えるのか) ◇ 市の一体感が醸成する。 ◇ 国際化への市民の意識が醸成される。 ◇ 交流人口が増加する。 ◇ 定住人口が増加する。	④ 成果指標名称 (意図の達成度の指標) 数字は記入しない (単位) d 友好都市交流事業への参加市民数 人 e 芦川おごっそう家来客数 人 f g h
⑤ 成果指標設定の考え方 ◇ 市の事業で直接交流した人の数を指標として設定する。 ◇ 交流拠点の一つである芦川おごっそう家(農産物直売所)の来客者数で判断する。	⑥ 成果指標の取得方法 ◇ 交流事業への参加市民数は経営企画課把握。 ◇ 芦川農産物直売所来客者数は、農林振興課把握。

(2) 指標・事業費等の実績推移と目標値			23年度 実績、決算	24年度 実績、決算	25年度 実績、決算	26年度 実績、決算	27年度 実績、決算	28年度 実績、見込み	29年度 最終目標		
対象 指標	a 笛吹市の人口(年度当初)<見込み値は一定数値>	人	見込み値 72,000 実績値 72,192	72,000 72,145	72,000 71,724	72,000 71,132	72,000 70,749	72,000	72,000		
	b 友好都市の人口(国外を除く)<見込み値は一定数値>	人	見込み値 181,000 実績値 181,470	181,000 179,380	181,000 178,876	181,000 176,900	181,000 173,407	181,000	181,000		
	c 首都圏の住民基本台帳人口(年度当初)<見込み値は前年増減率>	人	見込み値 42,470,000 実績値 42,700,093	42,480,000 42,631,000	42,560,000 42,714,887	42,720,000 42,880,724	42,880,000 42,734,604				
成果 指標	d 友好都市交流事業への参加市民数	人	成り行き値 285 目標値 300 実績値 516	280 520 605	500 600 594	500 600 812	500 650 743	500 650	500 700		
		e 芦川おごっそう家来客数	人	成り行き値 69,500 目標値 70,000 実績値 74,816	70,000 75,000 76,473	71,000 76,000 64,096	71,000 77,000 63,837	72,000 78,000 61,000	72,000 79,000	73,000 80,000	
			f		成り行き値 目標値 実績値						
	g			成り行き値 目標値 実績値							
	h		成り行き値 目標値 実績値								
	施策コスト	事務事業数		本	25	25	17	20	32		
		施策に 関係する 事務事業の コストの合計 (評価外を含み、 繰越分を除く)	事業費 (A)		千円	136,539	67,143	33,807	22,640	1,979,081	
			うち一般財源 (A')		千円	29,776	10,566	15,883	9,712	1,918,300	
			人件費 (B)		千円	60,046	51,802	29,796	30,720	53,710	
			トータルコスト (A+B) (C)		千円	196,585	118,945	63,603	53,360	2,032,791	
	うち一財 (A'+B) (C')		千円	89,822	62,368	45,679	40,432	1,972,010			

(3) 施策の目標設定の根拠 (水準の理由と前提条件)

● 後期基本計画策定に伴い成り行き値、目標値の再設定を行った。
 ◇ 友好都市交流事業参加市民数: 成り行き値は、H23年度実績値を基に設定。目標値は、H23年度実績値を基にH25年度交流組織の見直しを図り、交流事業の実施を想定し設定。(友好都市との交流参加者のみ)
 ◇ 芦川おごっそう家(農産物直売所) 来客者数: 成り行き値はH22年度実績値(69,342)から微増とし、目標値は、H23年度実績値を基にH25年度か毎年1,000人増と設定。

(4) 施策の役割分担 (住民と行政との役割分担)

ア) 住民の役割 (住民・地域・団体・事業所が、自助・共助でやるべきこと) ◇ 市民は、イベントや友好都市交流事業に参加する。 ◇ 市民及び団体は、友好都市住民と自主的な交流を続ける。 ◇ 国際交流団体は、国際交流の催しを開催する。 ◇ スポーツ少年団は、友好都市とのスポーツ大会を継続開催する。	イ) 行政の役割 (市・県・国がやるべきこと) ◇ 市は、友好都市交流事業を実施する。イベントを開催する。イベントや友好都市交流の情報を発信する。 ◇ 市は、国際交流組織活動を支援する。
---	--

(5)環境変化 (対象者や根拠法令等は5年前と比べてどう変わったのか?)

◇H22年3月、若彦トンネルが開通し、芦川農産物直売所おごっそう家がオープンした。
◇震災の影響により外国人観光客が減少した。
◇H24年度末に多機能アリーナ建設事業を中止した。

(6)関係者の意見・要望 (住民、議会、対象者、利害関係者等)

◇市民の意見…旧町村の交流事業に対して両論(①地域ごとに実施。②笛吹市として一本化。)がある。
◇議会・監査委員…友好都市交流の予算に格差があると指摘。
◇国外(台湾、モンゴル)の都市から友好都市の締結を望む声がある。

2. H27年度の施策の実績 Check

(1)施策の成果実績

<p>① 目標達成度評価 (前年度目標値と実績値との比較)</p> <p><input type="checkbox"/> 目標値より高い実績値だった</p> <p><input type="checkbox"/> 目標値どおりの実績値だった</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった</p>	<p>⇒左記の背景として考えられること</p> <p>◇友好都市交流事業への参加市民数は、目標値650人に対し、実績値は743人と上回った数値であった。(佐渡市、中国肥城市からの受入れ事業、千葉県館山市との交流事業(スポ少)があったための増。)</p> <p>◇芦川農産物直売所来客数は、目標値78,000人に対し、実績値は61,000人であった。(通年変動の範囲内だが、減少傾向である。)</p>
<p>② 時系列比較 (過去3か年の比較)</p> <p><input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した</p> <p><input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した</p> <p><input type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない(横ばい状態)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した</p> <p><input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した</p>	<p>⇒左記の背景として考えられること</p> <p>◇友好都市交流事業への参加市民数は、H25年度594人、H26年度812人、H27年度743人であった。(友好都市交流を通じた市民の交流団体の設立があり、使節団受け入れの際、協力いただいた。)</p> <p>◇芦川農産物直売所来客数は、H25年度64,096人、H26年度63,837人、H27年度61,000人であった。(長期の景気低迷の影響もあり来客数は減少傾向である。)</p>
<p>③ 他自治体との成果実績値の比較</p> <p><input type="checkbox"/> 他自治体と比べてかなり高い成果水準である</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 他自治体と比べてどちらかと言えば高い成果水準である</p> <p><input type="checkbox"/> 他自治体と比べてほぼ同水準である</p> <p><input type="checkbox"/> 他自治体と比べてどちらかと言えば低い成果水準である</p> <p><input type="checkbox"/> 他自治体と比べてかなり低い成果水準である</p> <p>自治体名⇒南アルプス市、山梨市、甲州市</p>	<p>⇒左記の背景として考えられること</p> <p>◇友好都市の数は、本市は国外3国内5、南ア市は国外4国内4、山梨市は国外2、甲州市は国外2国内3となっている。</p> <p>◇他自治体には、自治体の施設としての農産物直売所が無いため比較は行っていない。</p>

(2)施策のコスト実績 (対象1単位当たり又は住民一人当たりのコスト)

対象指標名称⇒ 笛吹市の人口	(単位)	25年度	26年度	27年度	効率性評価
*対象指標実績値 (D) (1枚目の a)	人	71,724	71,132	70,749	◇平成27年度は、地域環境資源活用推進事業費等が減となったが、国のH26補正対応事業(6事業)等の増により、事業費は増加している。 ◇人件費率H26年度57.6%に対して、H27年度2.61%から効率は向上している。
*対象1単位当たり事業費 (1枚目 A / D)	円	471	318	27,973	
*対象1単位当たり人件費 (1枚目 B / D)	円	415	432	759	
*対象1単位当たりトータルコスト (1枚目 C / D)	円	887	750	28,732	

(3)施策の現状と課題の総括

◇人々の交流を盛んにするしくみと共に人々の交流の場も不可欠である。(鶴の飼育観覧施設の新設等)
◇国際友好都市との交流は、現状の海外3都市との交流を基本とし、今後も、市民レベルでの交流を促進していくための組織作りに取り組む必要がある。
◇国内地域間交流については、都市間協定などの取り交わしがなく旧町村(地域)で交流を行っており、市として地域間交流が生かされていない。それぞれの交流経緯等を生かしながら、市としての交流テーマを設定して地域間交流を生かす必要がある。そのためには市役所の組織体制、市民との協働事業の取組みの促進などを見直していくことが求められる。
◇地域間交流を継続していくうえで、市民レベルでの交流を促していく必要があるが、参加の確保のための自発性を促す支援が不可欠である。
◇芦川農産物直売所については、交流人口目標を下回っているが、さらなる交流人口増に向け、地域内外の関連施設との連携が必要である。

3. 後期基本計画の取り組み方針(29年度) Action

(1)現状と課題から導き出した次年度の取り組み方針

◇ミズベリング構想の具現化により、水辺の賑わい創出と交流人口の活性化を図る。(水辺カフェ・鶴の飼育観覧施設及び鶴飼実演の宣伝強化)
◇芦川農産物直売所について:地域内施設(藤原邸、沢妻亭など)及び関連施設(農啓庵など)との連携を図り、多彩なイベント等の交流事業に取り組む。

(2)施策の対象を、目標に導くための次年度の手段

◇国際交流事業については、「国際化推進指針」に基づき、市内推進組織の設立を図る。また、市民レベルでの国際交流活動の取り組みを進め、友好親善都市であるドイツ、パートメルゲントハイム市との市民交流を推進する。
◇芦川農産物直売所については、地域内施設および関連施設との連携を図り、多彩なイベント等の交流事業に取り組む。